
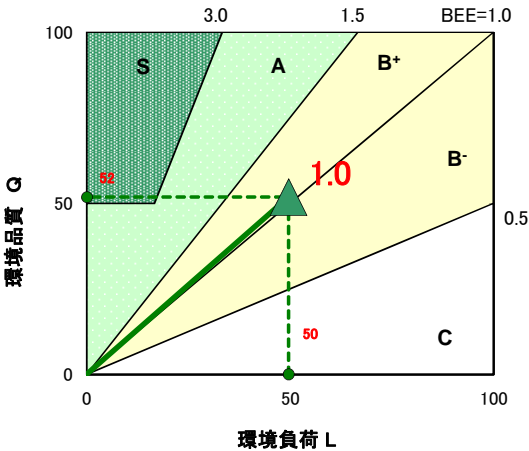









# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮)サクラリーナ・プロジェクト	階数	地上2F		
建設地	熊本県上益城郡益城町大字寺中学	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域、熊本空港周辺景観	平均居住人員	15 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,450 時間/年		
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年9月6日		
敷地面積	235,182 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	2,592 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月9日		
延床面積	2,756 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)			
		<b>BEE = 1.0</b>	
		$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$	
<b>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)</b>		<b>排出率</b>	
		<b>97%</b>	
<b>■ 環境効率評価基準</b>		<b>■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準</b>	
ランク	ランク表示	評価	判定値
			BEE値
			Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満
C	★	劣る	0.5未満
			判定値 (排出率)
			ランク表示
			30%以下
			30%超60%以下
			60%超80%以下
			80%超100%以下
			100%超

## 2 熊本県重点評価結果

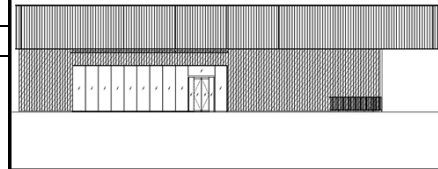
■ 重点事項総合評価		評価点	
		<b>77</b>	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	<b>68.7</b>	<b>■ 熊本県重点評価基準</b>	
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	<b>78.7</b>	判定値 (評価点)	ランク表示
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	<b>92.5</b>	100点以上	
【重点事項4】 循環型社会の実現	<b>76.5</b>	80点以上100点未満	
		60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮)サクラリーナ・プロジェクト	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡益城町大字寺中	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、熊本空港周辺景	平均居住人員	15人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年9月6日
敷地面積	235,182 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,592 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月9日
延床面積	2,756 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	97%
③上記+②以外の	97%
④上記+	97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.5

音環境	2.0
温熱環境	2.4
光・視環境	N.A.
空気質環境	3.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

機能性	2.5
耐用性	3.1
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.8

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性	3.0

### LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.1
地域環境	3.3
周辺環境	3.0

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 77

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 評価点 = 68.7	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 78.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 92.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 76.5

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

・建物を地下に埋めることにより、道路面からの圧迫感に配慮 ・周囲との景観の調和等を考慮し、建物周辺に緑地を配する計画としている

### Q1 室内環境

・F☆☆☆☆建材の使用 ・全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮 ・輻射式冷暖房の採用により、室内環境に配慮

### Q2 サービス性能

・階高にゆとりを持たせ、建物内が自由に使えるよう配慮 ・設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした

### Q3 室外環境（敷地内）

・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮

### LR1 エネルギー

・北東・北西・南東面に対し庇を伸ばし、室内熱環境を考慮した ・南西面に対して複層ガラスを採用することで、遮熱性を高めた

### LR2 資源・マテリアル

・断熱材は全てノンフロンとした

### LR3 敷地外環境

・適切な数の駐車スペースとし、イン/アウト表示を施すことにより、車両混雑を軽減するよう配慮した

### その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.0</b>	0.23	-	-	-	-	<b>2.0</b>
1.1 騒音		-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音		<b>1.0</b>	0.67	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		<b>1.0</b>	1.00	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音	壁:音響板、天井:GWマット	<b>4.0</b>	0.33	-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.4</b>	0.44	-	-	-	-	<b>2.4</b>
2.1 室温制御		<b>2.6</b>	0.50	-	-	-	-	-
1 室温		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
2 外皮性能		<b>1.0</b>	0.17	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.33	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-	-	-	-
3.1 屋光利用		-	-	-	-	-	-	-
1 屋光率		-	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-
3 屋光利用設備		-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-
1 屋光制御		-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	-	-	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		<b>3.0</b>	1.00	-	-	-	-	-
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気		<b>2.0</b>	0.30	-	-	-	-	-
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	全館禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.5</b>	0.40	-	-	-	-	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		<b>1.0</b>	1.00	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	②リノリウム貼③タラフレックス貼④壁面凹凸なし	<b>4.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30	-	-	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-	-	-	-
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.6</b>	0.30	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ガルバリウム鋼板(25年)	<b>5.0</b>	0.10	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	水道用ポリエチレン管:給水管(B),硬質塩化ビニル管:雑排水管(B),通気	<b>5.0</b>	0.20	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-	-	-	-

2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	①節水型機器(グリーン購入適合品) ③汚水槽あり ⑤井戸あり	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		-	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.12	4.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	ルート確保、機能維持できる	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	スペースあり	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		空港周辺景観との調和、良好な景観形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		外部に面する部分断熱材設置	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.96 住宅(専有部) -	3.0	0.50	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価(3a.3b)	3.0	1.00	-	-	
		集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
		集合住宅以外の評価	2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器(グリーン購入適合品)	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		分別可能(LGS)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1		消火剤	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3		冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		卓越風向等を考慮	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3		交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1		騒音	3.0	1.00	-	-	
2		振動	-	-	-	-	
3		悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2		砂塵の抑制	-	-	-	-	
3		日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮)サクラリーナ・プロジェクト

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				68.7	0.40	27.48
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				78.7	0.20	15.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				92.5	0.20	18.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数